

ダム材料の使用範囲の拡大

摺上川ダムにおいては、ロック材として用いる花崗岩を材料山から採取する際、材料山に貫入狭在する粗粒玄武岩及び熱変質を受けている岩(低品質材)については所要の品質を満足していないため廃棄することとしていた。しかし、原石採取において低品質材を選別し廃棄することは、作業効率の悪化、全体(良質材料及び廃棄岩)の掘削量が増加し、低品質材の有効適正利用を検討した結果、乾湿の繰り返しを受けない内部ロック材に限定して利用することが可能であることが判明した。

この検討結果を受けて低品質材の有効適正利用を実施することにより、材料の採取・運搬量及び残土処理量を削減することができ、自然環境への負荷の低減が図られるとともに、材料採取等に係る工事費の6.8%(約12億円)が縮減された。

原石山採取岩の適正利用

低品質材が混在する原石を乾湿の繰り返しを受けない内部ロック材として適正利用を図る。(約63万m³)

